第２回四万十町窪川地域中心街地活性化協議会議事録

1　開催日時　令和元年 12 月 16 日(月)　13:30~15:00

2　開催場所　四万十町役場東庁舎１階多目的大ホール

3　出席委員及び欠席委員

（出席）

会　長	（四万十町商工会会長）	武田　秀義
副会長	（社会福祉法人しまんと町社会福祉協議会会長）	八木　雅昭
委　員	（一般社団法人四万十町観光協会会長）	池田　十三生
委　員	（岩本寺住職）	窪　博正
委　員	（四万十町副町長）	森　武士
委　員	（高知県産業振興推進部地域産業振興監（高幡地域担当））	森田　健嗣
委　員	（有限会社山岡商店代表取締役）	山岡　義正
委　員	（高知県商工労働部経営支援課長）	山本　倫嗣
委　員	（株式会社四万十交通代表取締役）	吉岡　真佐人
委　員	（窪川街分区長会長）	吉田　正英

（欠席）

委　員	（株式会社高知銀行窪川支店長）	泉　茂
委　員	（窪川中学校ＰＴＡ会長）	佐竹　孝太

4　事務局等出席者

高知県　経営支援課　主査　鍋島　由子

高幡地域本部　地域支援企画員　池田 菜美

四万十町商工会　事務局長　宮地　正人、事務局　森田　尊之

四万十町　　企画課まちづくり推進室 室長 大元 学、

人材育成推進センター 主幹 横山 光一、地域おこし協力隊 岸 豊、

にぎわい創出課 課長 植村 有三、副課長 小笹 義博、総括主幹 竹澤和子

5　報告事項

（１）　ワーキンググループからの提案・意見等について

6　議事

（１）令和２年度の予算を伴う取り組みについて

・ワーキンググループからの提案事業

・既存事業との連携について

（２）協議会及び計画の名称変更について

7　その他

会議の情報公開について

8　配布資料

資料１　四万十町(窪川地域)中心市街地活性化協議会ワーキンググループの経過報告

資料２　四万十町(窪川地域）中心市街地活性化計画の事業案について
資料３　四万十町(窪川地域)中心市街地活性化協議会設置要綱（案）及び新旧対照表

【概要】

■委員 12 名中 10 名の出席により会議が成立することを報告し、開会を宣言。

■会長あいさつ

ワーキンググループの方では３回の協議が行われ、その中で話し合われたことが提案されている。今日は、予算化に向けた検討・協議を行うということでご協力をお願いしたい。

■報告事項

ワーキンググループの開催状況や話し合われた内容・意見等について、資料１を用いて事務局から報告を行った。

■協議事項

（１）令和２年度の予算を伴う取り組みについて

ワーキンググループから提案があった事業・予算の概要について、また、商工会や町の既存事業も提案事業と一体的に進めていくため、計画に位置づけることについて資料２を用いて事務局から説明を行った。

既存事業との調整及び実施段階での予算内容の精査をしっかりと行うとしたうえで、提案事業内容及び令和２年度予算額を大枠で押さえることについて、承認された。

（２）協議会及び計画の名称変更について

四万十町窪川地域中心市街地活性化協議会及び計画として変更し、施行の日を 10 月 17 日とすることについて、資料３により事務局から説明を行い異議なく承認された。

■その他

（１）今後のスケジュールについて

今後のスケジュールについて、参考資料により説明事務局より説明した。

（２）会議の情報公開について

協議会及びワーキンググループの会議を公開で開催すること、又、これまでの経過についてもホームページへの掲載等で公開することを事務局の案として説明し了承を得た。

（３）予算について

予算については、既存事業との調整を行い、執行にあたってはきちんと精査するよう要請があり、事務局も同じ考えであることを確認した。

＜主な意見・協議内容＞

（委員）まち歩きのガイドが少なく、（事業で）ガイド希望者もつくってもらいた

い。

街中に（昔のことを説明する）看板をつけて反響があった。もっと充実させれば街中が楽しくなるのでは。

ＪＲ維新号に向け、待合時間に合わせた駅からのウォークも考えたい。

また、まち歩きと連携して「呼坂」をもっと世に出したい。坂本龍馬、ジョン万次郎、牧野富太郎、谷干城も通った道として看板もつけて歩きやすくしてはどうか。

（委員）ワーキンググループの熱心な議論と提案を高く評価したい。

既存の事業との連携は、事務局のほうでもしっかりと取ってもらいたい。実行部隊にはどのようなメンバーがいて、実際に意気込みをもって取り組もうとしているのか。そこが一番キーポイントになる。

→（事務局）

（主な実施主体となる）まちおこし応援団には、ワーキングのメンバー中心に呼びかけ、徐々に集まりつつある。

元地域おこし協力隊で駅前にゲストハウスを立ち上げようとしている石井氏、井上糀店の井上氏、自然体験型の観光商品の開発などを行っている、まちづくり団体ＳＴＥＰ（代表石井氏)、「街中での映画上映」の実施主体のシマコンなど。来年度は、街中の活性化をテーマにした開催も行いながら、プレイヤーを増強していきたい。

※シマコンとは、鎌倉を盛り上げようとアイデア出しのワークショップを定期的に開催している「カマコン」の四万十町版。

（委員）全体的にざっくりしていて、エリアの考え方や予算内容が見えづらい。どのエリアをどの程度整備し、エリアごとにどういった色合いを出すのか。予算も、年度ごとのステップなど、今どの段階で何にいくらいるのか。情報アプリでいうと新たに開発するのか既存の事業者のアプリをカスタマイズするのか、どういう作業にいくら必要なのか。提案事業の中身はおもしろいと思うので、計画を具体的にしながら、初期投資やランニング等の意識を。専門家の方にもいろいろ聞きながらやっていけばいいかと思う。

→（事務局）エリアについては、古書店街でいえば、まだ具体的にどの空家、どの地域を使ってということは決まっていない。検討段階。

四万十町の生活情報アプリは、特に中心市街地にある商店街では、小さな会社、商店の多くはホームページを持っていないのが現状。今の時代は、みんなスマホで、ホームページから情報を見るため、ホームページの代わりになるものということで検討を進めている。

※　古書店街道の補足

発案者の方の想いとして、空家を活用するときに古書を置くということであれば、建物や光熱費にあまり経費をかけずに活用出来て、なおかつ町民の皆さ

んや観光客の皆さんにお越しいただけるまちづくりができるのではないかということが大きかったと考えている。

また、ネット通販で中古本を流通させるとすれば、大都市圏に比べて地方の方が、空きスペースの豊富さ、古本の在庫コストの面で有利ということをテレビで見た。そんな観点から、事業継続性、ビジネス化につながるのではないかと。寄贈の本の貢献度に応じたお礼として四万十町に招待することも検討して行きたい。

（委員）駅に拠点があるので、コインロッカーの問い合わせ多い。現在は、事務所で預かるケースも多い。窪川の入り口にコインロッカーがあれば非常にいいかと思う。

（委員）地域の聞き取り調査でも要望が多い。バスで来て列車で高知へ行くときや窪川で降りて街を歩くときに荷物を置くところがないと。4月の観光列車で四万十町に来て、降りて、街歩きをしてもらうためにも手荷物を預けるところは必要。是非、早い段階で検討していただきたい。

（委員）コインロッカーの話は以前にもしていたのではないかと思う。ちょうど今、各課予算の段階で、関係課長もいるので持ち帰って検討をする。

（委員）提案にもあるが、駅前に看板、案内看板があれば良いとの声が多い。以前にあった簡単な略図・地図のような誰が見てもわかるような看板があれば良い。また、駅前の周辺に土産者売場があると良いとの声もある。

今回の提案説明はざっくりしていて、事業ごとの数字だけでなく具体的な数字もないと、どういうふうに進めていくのかよくわからない。

映画の上映会は、僕も考えていて、すぐにできる取組の気がする。今、チャレンジショップをやっている方が、映画のフィルムを250本くらい持っていて、貸してもらえるとのこと。それなら映写機と、あとは会場を構えるだけで良いのでは。他の事業については、どれから提案して、どういう検討をしていったらいいのだろうか。

（委員）今回、新しい事業として提案をされていると思うが、既存事業とすり合わせをして、きちんと深堀りするなりコラボするなり簡素化するなり、いろいろとやり方はあると思う。そういう検討もできる場としてこの会があればいいのではないかと思う。

（事務局）今後のスケジュールも関係するが、1月21日に予定している第4回のワーキングループまでに、各事業について、各グループで具体的に検討してくるようにとしている。第3回ワーキンググループまでに細部の詰めまでに至らなかった部分もあり、このようなざっくりとした予算の説明と予算立になっている。実行段階で厳しく精査する必要があるのは、実施側も事務局側も了解しているところ。予算要求とスケジュールの兼ね合いはあるが、枠として予算を押さえておいて、協議会にお諮りしながら事業を決めていくかたちになろうかと予想してい

る。

（委員）他に皆さんの方から何かご意見は。

（委員）説明の中で、例えばにぎわい拠点づくりは、空家を改修してスペースをつくる、あるいはコンテナハウスなどは次年度以降ということであった。そうなると一定、2年3年は継続的に役場の方も支援はするのか。

（事務局）そのようになる。

（委員）そこを示せるか。

（事務局）今、予算が0円になっている中には、今年度検討、調査という部分もある。2年目、3年目の事業を作りたいと思っているが、役場の予算要求のスケジュールには間に合わないかと思う。そのため、大枠で予算の了承をいただいて、その中でまた精査をして、実施内容を決めていきたいと考えている。

（委員）例えば、さきほどの映画なんかは、すぐ取りかかれる話だと思う。古書に関しても、池の酒屋さんのあと、羽屋戸の魚屋の前の橋村の自転車屋さん等、貸してくれそうなところはイメージできる。そういうところにあたってみながら、貸してくれそうなところがあれば、予算的に手をあげていく。全部を形にしてから始めようとするよりも、皆で進めながら探りながら、できる段階にきた時点で作業にあげて取り組んでいく方がひとつでも多く実現できるかと思う。これだけいっぺんにやるのは、なかなか難しいので。

（事務局）そこは、自分たちも少し心配をしているところ。やる気のある方はそろっているとは思うが、実際に自分の生活がある中では大変だと思う。

（委員）そう。負担になって、時間で追い込まれるのではなく、楽しみながら取り組んで、ひとつひとつやっていくというのが一番いいと思う。まず、駅前のところに街歩きの看板の設置なんてスムーズにいく話だと思う。

（委員）（呼坂の）龍馬や誰々が歩きましたというような文言を書いた看板は必要かと。あちこちたんね隊で「龍馬が通っているにかあらん」という話をすると、皆非常に反応がいい。

（委員）にぎわい創出課が担当か？また、相談に行くから（よろしく）。

（委員）観光協会の者と行くからよろしく。

（委員）僕はワーキンググループに参加しているので、確認をしておきたいが、会長を含めていろんな方から予算の件で話があった。このワーキンググループから出た案を継続的に検討していくということで良いか。

（事務局）はい。

（委員）そのようになる。

（委員）却下ということではない、ならば良かった。せっかく団体を越えていろんな方が集まっている。いろいろ検討段階で、何ができるかというところから行政とも相談しながらになるが、何かひとつ形にしたいと皆が言っている。ご検討いただければありがたい。

（委員）ワーキンググループのメンバーに、意識として持ってもらいたいのが、集まっていろんな意見を出すだけじゃなく、進めたいんだったら自分が動いてそれを形にしていく。古書だったら空家を探してみるなど、自分がまず動いてから、それをワーキングの中で話して具体化していく。机上で話してもなかなか話が進まない場合がある。

（委員）どれぐらい動いていいのかというところも、手探りの段階。そういったことも含めて、ここでも示していただければ嬉しい。

（委員）そういうところを協議会とワーキンググループとすり合わせをしながらやっていけたら、さらに実現可能なことが多いかと思う。

（委員）この古書街道の件なんかは、応援してくれる人もいる企画で、具体的に進んでいきそうだと思っている。いろいろとお教えいただければありがたい。

（委員）あと、先ほどから何度も言うが、映画は、チャレンジショップの方にテープやどんな映写機が必要か聞けばすぐに教えてくれるので、調べて上映会をやってもらえたらと思う。

（委員）映画の著作権なんかは難しいのでは。面白い提案だとは思うが。

（委員）テープの持ち主に聞けばわかると思う。あと、お土産売り場、駅前看板なども検討をお願いしたい。あとロッカーに関しては、観光列車にもやはり必要だと思うので、にぎわい創出課でも検討をよろしくお願いする。

（委員）予算で気になっているのは、この事業はにぎわい創出課の予算の中で手当てされるのか。この場でオーケーならば、丸々いけるということか？査定が入るのか？

（事務局）予算要求の場でも折衝があるし、最終的には県への補助金の申請のところで精査されることになる。

（委員）住民からやりたいという提案を認めていこうという流れは、ある意味ではまちづくりのためにはいいことかと思うが、限られた予算で、行政の場合は査定がある中で、その辺の兼ね合いがどうかと気になったところ。

（委員）パッと見たときに、既存の事業でできる部分もある。そこの調整は、きちんとしてほしい。